

コミュニケーション スキルアップ★COM

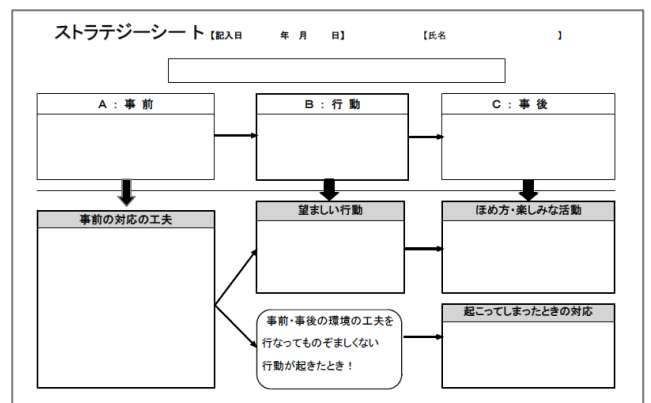
問題行動の対応は「事前の工夫」が重要

こども支援アセスメント勉強会で学んだことを活かしていますか？

昨年12月に2回目のこども支援アセスメント勉強会（講師 本郷 佳江氏，Y's communications 代表）を開催してから早くも2か月経ちました。参加された事業所の皆さんは、学んだことをその後の支援に活かすことができますか？勉強会では「ストラテジーシート」を活用し、支援状況を整理する方法を学びました。今回はこの内容を振り返りたいと思います。

【ストラテジーシートを使った支援の考え方】

- ① お子さんの問題行動(B)を1つ取り上げる。
- ② ①が起きた時の状況を「事前(A)」, その後の職員の対応やお子さんの状況を「事後(C)」として分けて, 事実を客観的に整理する。
- ③ お子さんがどのような行動ができれば良いのか(望ましい行動)を考える。
- ④ ③のためにできる事前対応の工夫, 望ましい行動ができたときのご褒美(ほめ方, 楽しみな活動), 残念ながら問題行動が起きてしまった時の対応について考える。



シートをもとに支援者間でたくさん意見を出し合っていると良いですね。



望ましい行動を考える際に気をつけることは2つありました。

- ① 「〇〇しない」といった否定形ではなく肯定形で表現すること。
- ② 「ちゃんと」「きちんと」といった曖昧な表現ではなく具体的な行動で表現すること。

支援者からは、目の前で起こってしまったお子さんの行動に対して「何か良い対処方法を教えてほしい」と聞かれることが多いのですが、事後対応よりもその問題行動が起きた背景や支援者の関わりを客観的に振り返り、同じような行動を繰り返さないための事前対応を行っていくことの方が重要です。

分かりやすく伝えるために、自分の考えを整理する

一般的にコミュニケーションスキルというと、聞き方、話し方の他、表情や身振り等の非言語的コミュニケーションのスキルを指すことが多いのですが、伝えたい内容を自分の中で根拠立てて整理するスキルも、特に支援者に必要とされるコミュニケーションスキルであるということを、このコラムを通じて皆さんにお伝えしてきました。

支援で本人・保護者・支援者のそれぞれの思いや情報を聞きとり、アセスメント結果や支援の方向性を伝える際に、「根拠→仮説→取組→結果の検証」といったプロセスで自分の考えや取組を整理する習慣を持つようになると、親御さんだけでなく、保育所や学校の先生、他事業所の支援者等にも分かりやすく自分達の支援について伝えることができるようになると思います。「スキル磨き」頑張ってください。

気になる子どもの アセスメントミニ講座

学校の授業での「書き写す」という作業に苦労している
お子さんが多いようです。

今回は板書を写すという作業について考えてみました。








子どもが授業で板書を写すのに、
時間がかかりうまく写せません。
何かいい解決方法はないですか？

今回のテーマ 「板書を書き写す」

小学校の授業では、先生が黒板に書いた字を見て、自分のノートに書き写すという「板書写し」があります。低学年のうちにはゆっくり丁寧に時間を取りながら進められますが、学年が上がるにつれて板書の文字量が増え、また書き写しのスピードも速くなってくると、板書写しが苦手なお子さんは、だんだんと書くことが追いつかなくなったり、字が乱雑になって後から読み返せないノートになったりします。

「板書を写す」という作業には、たくさんの細かな工程があります。お子さんはこの中のどの部分でつまづいてしまっているのでしょうか。よくあるつまづきとその理由を挙げてみました。

板書を写す工程	よくあるつまづき	つまづきの理由(例)
①書く準備をする ・姿勢をつくる ・ノートを開く ・鉛筆を持つ 	・姿勢が崩れている。 ・ノートのどのページに書くの？ (前の続き？ 新しいページ？) ・下敷きを入れ忘れている。 ・書きやすい鉛筆を選べない。 	・感覚入力弱い？ (固有覚, 前庭覚, 触覚) ・段取りのイメージが苦手？
②黒板を見る 	・どこを見ればいいのか？ ・どこから写せばいいのか？	・衝動性眼球運動が苦手？ ・空間認知が苦手？
③文字を読む	・なんて書いてあるの？	・読字障害がある？
④文字を覚える	・少しずつしか覚えられない。 単語のまとまりで覚えられない。	・ワーキングメモリに問題がある？
⑤視線を黒板からノートに戻し、字を書く <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">「②→③→④→⑤」を繰り返します</div>	・どこから書くのか探すのに時間がかかる。 ・字が書けない。 ・筆圧が弱い。強い。 ・字がマス目や行の中に収まらない。 ・ゆっくり書けずになぐり書きになる。 焦ってしまい、なぐり書きになる。	・衝動性眼球運動が苦手？ ・書字障害がある？ ・手の巧緻性が未発達？ ・目と手の協応が苦手？ ・空間認知が弱い？ ・気持ち、衝動性のコントロールが苦手？ 
・間違えたところを消しゴムで消す ・定規で線を引く	・力任せに消して、紙がぐちゃぐちゃ。 ・筆圧強すぎて線が消えない。 ・消さなくてもいいところまで消してしまう。 ・線を引いているうちに、定規がずれてしまう。	・両手の協調動作が苦手？ ・力のコントロールが難しい？ ・感覚入力弱い？ 

お子さんのつまづきを具体的に評価することが出来ていなければ、そのお子さんにとって効果的な支援を考えることはできません。いくら頑張ってもうまく出来ないといった経験が積み重なってしまうと、お子さんの自己肯定感も低くなってしまいます。

何度も繰り返しになりますが、支援を考えるためには、お子さんの行動や様子をよく観察し、客観的な視点でアセスメントを行うことが必要不可欠です。それができるようになるためには、日々一人一人のお子さんにしっかり向き合う中で、分からないことがあったら本等で調べてみたり、勉強会に参加してみたり、事業所のケース検討で他支援者の気付きから学んだりする等、自分でコツコツと学びを積み重ねていく自己研鑽が大事だと考えています。そしてそのモチベーションを維持していくことも大切です。

当所の地域リハビリテーション事業では、これからも地域の支援者の皆さんと学ぶ機会を作りたいと考えております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

これまでの通信は当所ホームページに掲載されています。
<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/sd-hohuku/reha-reco-kodomo-assesment.html>
 (「仙台 リハレコ」で検索) QRコードはこちら→



[発行・問い合わせ先]
 宮城県仙台保健福祉事務所健康づくり支援班
 〒985-0003 宮城県塩竈市北浜 4 丁目 8-15
 TEL/FAX : 022-363-5503 / 022-362-6161
 メール sdhwfzke@pref.miyagi.lg.jp